

「金の斧銀の斧」

きん おのぎん おの

A 「じいさー (「ン」名) じや」

B 「やういへお願いします」

A 「昔話のなかで一番好きなのは何？」

B 「うーん (考えて) ・ ・ ・金の斧銀の斧かな」

A 「一緒や。ほな今から金の斧銀の斧の話をも二人で再現してみよか。」

僕 (私) が斧を落とす人やるから水の精やって」

B 「わかった」

*2人両端に分かれてコントに入る

A 「さーて木をこの斧でおすぞ。カーンカーンカーン。ポチャ・ ・ ・

ああしまった斧を湖に落としてしまった。どうしよう」

B 「フクフクフクフクフクフク」

A 「ああっ湖から何か出てきたぞ。なんだろう」

B 「ポケ①」

A 「ポケ①」 ・ ・ ・ちやんせう」

B 「私はこの湖に住む水の精です。あなたが落とした斧は

「金の斧ですか？ 銀の斧ですか？ それとも ・ ・ ・ポケ②」

A 「ポケ②」 ・ ・ ・私の落としたのは普通の鉄の斧です」

B 「あなたは正直者ですね。ではこのポケ③をあげましょ」

A 「ポケ③」 ・ ・ ・